



東北大学

平成 23 年 11 月 18 日

報道機関各位

東北大学大学院薬学研究科

東日本大震災に伴う血圧の上昇は 4 週間持続
「大震災被災者における慢性疾患への対応に関する提言」

東北大学大学院薬学研究科の今井 潤教授等のグループは、東日本大震災発生時の高血圧患者における急激な血圧上昇と、その上昇が 4 週間に亘ることを明らかにしましたのでお知らせします。

本研究内容は、米国心臓協会の Hypertension 誌に掲載され、電子版が公開されています (doi:10.1161/HYPERTENSIONAHA.111.184077)。これに併せて、10 月 20 日に開催されました第 34 回 日本高血圧学会総会において、こうした急激な血圧の上昇に対し、どのように対応するかにつき、提言を行いましたので、ご報告致します。

仙台市内に在住で震災後、家庭血圧測定を行っていた患者 142 例において、震災前、震災直後から 6 週間の家庭血圧を分析した所、震災発生直後に、平均 10 mm Hg 以上の収縮期血圧（最高血圧）の上昇を認め、この上昇は 4 週間持続しておりました。これ等の対象は、震災直後に、自らの血圧を測定し得るという比較的被災の程度の軽微な人達における昇圧であり、今井教授等は、実際に家屋の倒壊や津波に遭遇した人達では、家庭血圧を測ることができなかつた、また血圧の薬を失ったことから、もっと著しい血圧の上昇があつたであろうと推定いたしております。

阪神淡路大震災におきましては、この期間に一致して、脳卒中、心筋梗塞の発症が急激に増えていたという事実と合わせて、震災直後のこの血圧の上昇が、こうした脳心血管事故に結びついたものと推定され、高血圧という慢性疾患の震災直後からの緊急対応の必要性を訴えております。

また今井教授等は、震災後の関東地区における保健活動の経験から、被災者の医療情報の欠損が大変深刻であつたことを強調し、今後発生が予想される関東、東海の大震災に備え、以下の提言をいたしました。

提言

1. 国民は、医療情報の含まれる IC タグ的信息手段（軍隊の認識票のようなもの）を常時有すべきである（携帯電話、運転免許証、保険証等に情報を付加するのもその一つとなるだろう）。
2. その際には、国が速やかに統一規格の情報伝達手段（携帯に IC タグを装着させる。IC タグ読み取り、書き込みの規格統一）を整備する必要がある。
3. 上記の対応には時間がかかると思われることから、市民は、自らの医療情報を常に身につけておき、自衛することが勧められる。例えば「お薬手帳」の常備携帯などである。
4. 食品、水などの備蓄とともに、治療薬を避難所に備蓄すべきである。降圧薬に関しては、Ca拮抗薬や利尿薬のような、安全域の高い薬品の備蓄が望まれる。
5. 緊急時の処方権に関する特例を整備すべきである（ある特定の薬物に関しては、避難所にいる看護師、保健師、薬剤師が自らの判断で、安全な薬物を処方できるようにするなどの特例が必要になるだろう）。
6. 各避難所に、家庭血圧計を備蓄すべきである。その際、開発途上国で用いられるようになった太陽電池で駆動し得るような装置が望ましい。

ここに述べた提言は、あくまで高血圧に対するものであり、より深刻なものは糖尿病薬（インシュリン等）、循環器薬、向精神薬等であると思われ、そうした慢性疾患への備えも緊急な課題であると提言いたしました。少なくとも、WHOの提言する災害時緊急医薬品の備蓄は速やかになされるべきであると考え、提言いたしております。

（お問い合わせ先）

連絡先 今井 潤

東北大学大学院薬学研究科 医薬開発構想講座

仙台市青葉区星陵町 2-1

臨床薬学教育研究棟 1 階

Tel 022-717-7770 Fax 022-717-7776